

第2回 第4次泉大津市総合計画審議会 議事要旨

日 時	平成26年7月24日（木曜日） 15:00 ～ 16:30
場 所	市役所5階 第一会議室
出席者 (敬称略)	<p>会 長：澤田 隆生（泉大津商工会議所）</p> <p>委 員：田中 一吉（泉大津市議会）、中谷 昭（泉大津市議会）、長田 実（泉大津市議会）、村岡 均（泉大津市議会）、堀口 陽一（泉大津市議会）、吉村 謙（泉大津市自治会連合会）、中 透（泉大津市医師会）、千百松 茅子（泉大津市民生委員・児童委員協議会）、北山 貴史（泉大津市PTA協議会）、河野 あゆみ（大阪市立大学大学院看護学研究科）、藤村 裕爾（大阪大谷大学教育学部）、山本 賢次（泉大津市）、田川 静一（市民）、溝口 和彦（市民）、久井 孝則（市民）、田々美 稔（市民）、東島 有子（市民）</p> <p>（欠 席：久 隆浩（近畿大学総合社会学部）、城下 英行（関西大学社会安全学部））</p> <p>事務局：榎葉総合政策部長、朝尾総務部長、迫間都市政策部長、今北健康福祉部長、上西議会事務局長、森田市立病院事務局長、小川教育部長、古藤消防長、東総合政策部理事兼危機管理監、三井総合政策部理事、虎間企画調整課長、大内企画調整課総括主査、森田企画調整課総括主査、山本企画調整課係員</p>
次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 第4次泉大津市総合計画（基本構想 素案）における基本理念の再検討について 3 第4次泉大津市総合計画（基本計画 素案）について 4 閉 会

■議事概要

（1）開会

（2）第4次泉大津市総合計画（基本構想 素案）における基本理念の再検討について

委 員：「コンパクト」の視点という文言について、将来像である「住めば誰もが輝くまち泉大津」との関連性を感じにくい。「天然バリアフリーのまち」等の表現の方がなじみやすく、適しているのではないか。

委 員：コンパクトに加え、高齢者や障がい者の移動に負担がないというフラットさも兼ね備えていることを踏まえ、「コンパクト・フラット」という文言にしてはどうであろうか。

事務局：「コンパクト」という視点の成り立ちは、将来像である「住めば誰もが輝くまち泉大津」を市民会議で導き出す過程において、多くの参加者から発言のあった言葉であり、庁内の策定委員会での議論を経て、現在の提案となっている。

会 長：現状のまま「コンパクト」を採用したいと思う。

委 員：コンパクトの視点の説明として、港湾部や海への近接性についても記載した方が良いのではないか。

事務局：海に近いことも本市の特長であり、書き加える方向で検討したい。

（3）第4次泉大津市総合計画（基本計画 素案）について

○審議会での論点について

委 員：今回の審議会において、計画の全体像に対する意見を述べるべきなのか、個別施策に対する意見を述べるべきなのか。

事務局：策定途中の計画であるので、計画全体の流れについて議論してもらいたいと考えているが、個別施策に対する意見があれば、その点についてもご指摘いただきたい。

委員：まず、市はどの方向に進んでいくのか、人口を増加させるのかなど、大きな目標を示す方がよいのではないか。

事務局：人口減少社会において、定住に向けた施策も必要だと考えており、ご意見の通り、大きな方向性を中心に議論していただきたいと思う。

○基本計画の構成について

委員：各基本施策の構成についてだが、まず現況と課題があり、それを踏まえた施策やめざす姿、目標といった流れで記載すべきではないか。

委員：現況と課題部分の書き方についてだが、1つの○印に対して複数の現況、課題が示されている。「また」で接続されているものもあり、文章のつながりがわかりにくい。1つの項目につき、現況、課題を1つずつ示した方が良いのではないか。

事務局：委員のご意見も踏まえ、今後も精査していきたい。

委員：計画の構成について、現況と課題があつて、それに対する施策を記載するという流れになっているが、本当はその間に「原因」があり、それを記載することはできないか。

事務局：今回の総合計画は市民に分かりやすく示すために、なるべく簡潔にするように心がけている。「原因」の部分は、行政の立場から推測して記載することはできるが、違う見方ができる場合もあり、特定して書きづらいものもある。その点も踏まえて書き込むとなると分量が増えることから書いていない。

委員：取組の事例で示されている項目は、総合計画策定後、全て事業化すると捉えてよいのか。

事務局：既に事業化しているもの、これから取り組む予定のもの、状況は様々であるが、事業化していきたいと考えている。

○基本計画のねらいについて

委員：「2. 学びあうひとづくり 彩りあるまちづくり」に、「教育内容の体系化」とある。地方分権の流れで、特区等により、6・3・3制を一体化するという議論もあるが、そこまで視野に入れた記載なのか。単に、就学前・小学校・中学校間の教育の連続性の不足を指しているのであれば、「体系化」と表記することに語弊がある。また、「地域社会の教育力の推進」とあるが、ここは「充実」などの方が適当ではないか。

事務局：教育内容の体系化とは、就学前・小・中学校教育の連続性を重視するということを意図したもので、表現については再検討したい。また、地域社会の教育力の推進についても、表現を検討したい。

○基本施策の内容について

【市民参画・協働】

委員：めざす姿に、「それぞれの役割と責任」という記載があるが、市民の責任とはどのように考えればよいか。

事務局：行政には行政体としての責任があるのと同様に、市民にも、責務とまでは言わなくとも、それぞれの立場における責任があると考えている。

委員：文中にあえて責任と示す必要はあるか。具体的に責任が何かを示せないのであれば、記載しなくてもよいのではないか。

委員：行政には責任があるため、責任という表記は必要と考える。

委員：発言内容を踏まえ、それぞれの「役割と責任」という表記を「役割や責任」に変更してはどうか。市民であっても、役割があれば、それを果たす責任が生じてくると考えている。

委員：役割という言葉は行動を意味するものであるが、責任とは「なぜその行動（役割）を

行うのか」ということのフィロソフィーに近い言葉である。市民・事業者・行政いずれにおいても、役割を果たすにあたっての責任は生じるものであるため、責任という言葉はあった方が良い。

会 長：この部分は「役割や責任」に変更する。

【地域コミュニティ】

委 員：9頁の「地域コミュニティ」の関連する市の条例・計画等に記載がない。成果指標の現状値も低い施策であり、地域における子育て支援や高齢者の包括ケアを推進するにあたって、地域住民の繋がりが重視されている。大事な施策であり、計画策定後の推進を担保する上でも、関連する計画を入れておいてほしい。

事務局：「地域コミュニティ」については、前頁の「市民参画・協働」と一体的に進める施策であり、市長が地域コミュニティの再構築を掲げているため、2つに分けた経緯がある。市民参画・協働の部分に記載されている「泉大津市市民協働推進に関する条例」は「地域コミュニティ」にも関わる条例であり、再掲することを検討したい。

【就学前・学校教育】

委 員：「保・幼・小の体系化したプログラム」についても表現を検討してほしい。

事務局：校種間の連続性を意識し、スムーズに接続したいということからの言葉であり、表現については検討したい。

【観光】

委 員：基本施策の一つに観光があげられているが、本市には観光課がない。観光の施策はどのような体制で取り組んでいくのか。

事務局：基本計画には31の基本施策を掲げているが、1施策を1課のみで実施していく訳ではなく、複数の課で取り組んでいくことを前提とした計画としている。

委 員：地域資源として繊維産業の100年の歴史があるが、開発が進むなかで、工場が住宅に変わってきている。資源としての「のこぎり屋根」を保存していくための対策が必要ではないか。

事務局：個人の所有物なので強制することはできないが、残していけるように市としても努力したい。

委 員：泉大津市は全国的に全く名前が知られていない。10年後、みんなに知られるまちになっていて欲しいと思う。

委 員：まちがきれいでない印象に残らないが、残念ながら市内には落書きが多い。泉大津市は昔から絵画が有名であり、現在、絵を描く集団がおり、有名になってきている。泉大津市もまちとしてのうりを作っていければよい。

会 長：泉大津市はまちとしてのブランディングが不十分であると感じている。

○市民満足度調査結果と基本計画への反映方法について

委 員：市民満足度調査の結果をみて気になったのは、数値が30%台の低いものがいくつかある。このような数値をどのように受け止め、施策に反映していくのか。

事務局：公共施設や観光など第3次総合計画において重視して取り上げていなかった項目の満足度が低かったと理解している。第4次総合計画でしっかりと取り組んでいきたいと考えており、それを「基本計画のねらい」に書き込んでいる。

委 員：基本計画の作成作業と市民満足度調査の実施時期を時系列で見ると、市民満足度調査結果は後から出てきたものである。想定して作成作業をされてきたかとは思いますが、この結果を厳しく受け止め、強弱をつけて計画に反映して行ってほしい。

委員：市民満足度調査の設問をみると、中には答えにくい質問もあるように感じる。結果をどのように取り扱っていくのか。

事務局：本人に対する設問については答えやすいと思うが、まちの状態等の設問については、雰囲気回答されたり、分からなくて無回答が多い設問も見受けられる。目標値の設定の議論を現在部会で進めており、その結果については、9月30日の第3回の審議会でお示ししたい。

○第3次総合計画の総括について

委員：第3次総合計画の総括はどこかに記載されているのか。市民の立場としては、施策の結果、どのような成果が出て、何につながったのかを知りたい。細かな文言の議論よりも、もっと切迫している問題を議論すべきではないか。

事務局：3次総合計画の評価については前回の審議会資料、第4次泉大津市総合計画【骨子案】で満足度、重要度に関する評価について示しているが、個々の施策の評価までは記載していない。

会長：計画に基づいて行動し、その結果を評価することは重要であり、結果や評価を意識した議論を心がけるようにしたい。

以上